
ぼくは悪魔

変なオジサン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくは悪魔

【コード】

N8804G

【作者名】

変なオジサン

【あらすじ】

愛という赤ちゃんが捨てられたのを松というおじさんが拾った。

ぼくは悪魔

オギャー、オギャー……

「こんな真冬に赤ちゃん!?…可愛いそうに…よし！オレがこの子を育てよう！」

……

「松ちゃん、はやく病気治してよ」

「愛ちゃんの頼みだから頑張って松ちゃん治すよ」

このおじさんは、松 大次郎。ぼくの父ちゃんだ。ぼくの名前は、松 愛。小学1年生。ぼくは父ちゃんのことを「松ちゃん」と呼んでいる。何の病気かぼくは知らないけど病院にいるらしい。

2

「松ちゃん、そろそろ学校いってくるー」

「おう、頑張つてこいよ!!」

「それじゃあ松ちゃん行ってくるわね」

このお姉さんの名前は、松 奈那子。松ちゃんの妹らしい。ぼくと一緒に暮らしている。いつも奈那子お姉ちゃんと病院に行く。

……

キーンコーンカーンコーン…

学校が終わった。

「愛ちゃん、帰るわよ」

「はぁーい！」

「今日はちょっと寄り道をしてくけどいいかな？」
車を運転しながら言った。

「うん！」

キキーン

車を停めた。

そこは墓場だった。

「JJJJ?」

「うん、そうよ」

ぼくは奈那子お姉ちゃんのをついていった。

男の人がいてその人が帰ってくるときすれ違った。

「今の人誰だろ…けっこうかつこよかったわね」

「うん、うん」

ぼくは誰が亡くなったのかよくわからないけど、奈那子お姉ちゃんのマネをしていた。

.....

病院に戻った。

「愛ちゃんおかえりい〜！！！！」

「ただいまあ〜！！！！」

「今日は愛ちゃんに松ちゃんからプレゼントがあるんだ、はいこれ！！帽子！！」

「わあ〜、ありがとう松ちゃん！！！！！！」

なんだか変な帽子だけどうれしかった。

「今日からぼく松ちゃんと一緒に寝るー、いいでしょ奈那子お姉ちゃん？？」

「いいわよ」

ニッコリ笑って返事してくれた。

「松ちゃんのイビキがなきや眠れないぜ」

「川のー...あははは」

松ちゃんはうれしそうだった。

……

夜になった。

グガアアアアー…グオオオオオオ…ガガガガアア…

松ちゃんのイビキがうるさくて眠れない。

ぼくは帽子をかぶった。

帽子を反対にしてみた。

ププ…ププ…ププ…

「あ…愛…聞こえる…?…お母さん…」

ププププ…ププププ…ププププ…

「あ…お母さん!?!どこにいるの…?…」

ププププ…ププププ…

「あ…、声が聞こえなくなった…なんだっただんたろう…お母さん…
の声?…」

……

夜が更けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8804g/>

ぼくは悪魔

2010年10月28日08時08分発行